

## 例 言

1. この報告書は昭和47年から49年にかけて実施した、奈良市庁舎建設地の発掘調査に関する報告である。
2. 昭和47年度の子備調査は京都大学文学部教授 岸 俊男、奈良国立文化財研究所 沢村 仁の指導によって行い、京都大学文学部 中村徹也が発掘調査を担当した。
3. 昭和48・49年の本調査は、奈良市庁舎建設地発掘調査委員会の立案計画にもとずき、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が発掘調査を担当し、岡田英男、松沢亜生、工楽善通、黒崎 直、千田剛道、高瀬要一、今泉隆雄、町田 章、伊東太作、高島忠平、加藤 優、稲田孝司、岩本圭輔、金子裕之、綾村 宏、西口寿生、山本忠尚、中村雅治が参加した。
4. 調査補助員として奈良大学 鈴木久男、伊藤 実、京都大学 中村友博、上原真人、東海大学 中岡和浩、東京工業大学 吉田純一、東京大学 吉田早苗の学生諸氏が参加した。
5. 報告書の作成は調査員の全員があたり、全体の討議をもとに分担して執筆した。各々の担当はつぎのとおりである。Ⅰ：町田章・中村徹也・岩本圭輔、Ⅱ：中村雅治、Ⅲ：加藤優・稲田孝司・金子裕之・山本忠尚、Ⅳ：町田 章
6. 遺構・遺物の写真は佃幹雄が担当し、図版の作成には八幡扶桑、渡辺衆芳、藤村礼子が協力した。航空写真の撮影はアジア航測株式会社があたった。
7. 遺構図面の製図は金井しんが担当した。
8. 英文要旨の翻訳はウイル・カーター氏が行った。
9. 編集は町田 章があたった。